

コラム

## 戦争法案反対！ 私的「創共協定」が蘇った日

渋谷民商 社会保険労務士 齊藤 学

「学会さんも頑張っってね」と声を掛けると

9月18日夜、私は「戦争法案」に反対すべく国会議事堂正門前集会に臨んでいました。手には参院特別委員会で、鴻池委員長と一緒に強行採決を行ったファシスト自民党佐藤正久を糾弾するプラカード「仲間（自衛隊員）を米国に売った男・佐藤正久」を高く掲げていました。会場では正に自公が「強行採決」を執行しようとする中、野党が厳しい批判と追求を繰り広げ、その思いを後押しするがごとく民意の声は夜空に高く轟いていました。

九時を過ぎたところで集まった人びとの移動がはじまり、私も人びとが行き交う中を歩いていると、向うから創価学会員と思われる三色旗を持った数人が見えました。なにげなく私が「学会さんも頑張っってね」と声を掛けると、旗を持っていた中年の女性がハイタッチをしようと手を上げてきました。とっさのことで私は思わずその手を握りしめて握手に変えてしまいました。ほんの数秒の出来事でしたが素直に嬉しかった。帰宅途中の電車で私の脳裏には昔の「創共協定」が思い出されてきました。

「創共協定」は、1975年に創価学会池田大作会長と共産党宮本顕治委員長が作家である松本清張を介して、お互いの組織のために「相互理解」と「敵視政策の撤廃」を主旨とした協定書を締結したことです。自由・平和・民主主義を求める同じ理念を持ちながら創価学会と日本共産党がいがみ合うことは、日本の未来とりわけ青年層にとって好ましくないということからの画期的な歩み寄りでした。

当時、民青（共産党系の青年組織）に属していた私は、宗教＝観念論＝非科学的、唯物論＝科学的＝真理と機械的で未熟な判断力しか持ち合わせておらず驚きと戸惑いがありました。しかしその2年前、「たとえ世界観は違ってもこの地上での不正義には連帯して共闘しよう」とい



齊藤さん手作りのマイ・プラカード

タリア共産党がキリスト教民主主義との協力路線に切りかえる、いわゆる「歴史的妥協政策」の連立政権が実現していました。私もこれに見習い「世界観は留保してまずは連帯だ」と妙に納得をしたことを覚えています。ところが協定は、両組織の連帯をおそれた公明党、自民党からの横やりが入り、あっけなく「死文化」させられてしまいました。

創価学会のその後の歩みは、「政教分離」批判もものともせず、公明党との連携を強め選挙では実践部隊として活動をしてきました。しかしここに来て公明党は「政権与党優先論」から創価学会が絶対に譲れない「平和」の理念をもコケにしてきました。侮辱しているのです。

まだ一部かもしれませんが創価学会員の平和を求める心は、安倍政権を打倒する上で必要不可欠な力と考えます。単純かもしれないが私はハイタッチでそれを直感しました。

9月19日は、安倍クーデターによって民主主義が殺された日ではありますが、新しい民主主義、連帯の糸口が鮮やかに蘇った「はじまりの日」でもあります。